
タイムマシンは作らない方がよい。

火和良

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイムマシンは作らない方がよい。

【Nコード】

N9434I

【作者名】

火和良

【あらすじ】

タイムマシンが欲しい貴方に贈る、2,045字のショート・ショートストーリー。

——これは今日の昼休み、
僕が社長室で社長の小言を聞くあいだ、あまりに退屈なのでふと考えた妄想である。
オチもひねりもないただの妄想である。

「こんなクソみてえな文を読ませやがって！ ファツキン！ ファツキンジャップ！」

と、いわずに、

「ワオ、ジェニー！ こんなクソみたいな文に時間をとらせようっていうのかい？」

「そうなのボブ、でもせいぜい5分くらいよ！ H A H A H A、シツト！」

と、なごやかに通り過ぎて欲しい―― 本文より。

通り過ぎず、読んでくれたら、もっとうれしい。

これは本日の昼休み、僕が社長室で社長の小言を聞くあいだ、あまりに退屈なのでふと考えた妄想である。

オチもひねりもないただの妄想である。

「こんなクソみてえな文を読ませやがって！
ファツキン！ファツキンジャップ！」

と、いわずに、

「ワオ、ジェニー！」

こんなクソみたいな文に時間をとらせようっていうのかい？」

「そうなのボブ、でもせいぜい5分くらいよ！ H A H A H A、シ
ット！」

と、なごやかに通り過ぎて欲しい。

タイムマシンは、つくらない方が良いような気がする。

ために一般市民Aさんが、タイムマシンでフランス革命期に行くとする。

タイムマシンをつかう条件として、あれやこれや制約もあるだろう。Aさんは勤勉で、マジメで、優秀で、フランス語が堪能で、規則を守る。

歴史上の人物に手をふれてはいけませんとか、エサを与えてはいけませんという条件にイエスと頷くだろう。

そしてAさんが、フランス革命期、
27歳のナポレオンの寝室にタイムワープすることに成功したとする。

Aさんは優秀だ。

たとえば真の愚か者がここに来たとして、
かのナポレオンに出会えたことに感涙し、彼に手をふれないようにしながら、

「あの、ウマでウィリーしてるポーズをとってもらっていいですか
!？」

とお願いしたとしても、真の愚か者には伝える術もないだろう。

Aさんはまじめで、勤勉で、常識的だ。

そんな愚かなことをするような人ではない。

Aさんは流暢なフランス語でこう言うだろう。

「わたくし、未来から来ましたAと申します。

あなたさまが未来で語り継がれていると証明できるカタログがあるのですが、

ご覧になりますか。

その際にはここに一筆いただくことになりますが、いかが致しましょう」

と、かの有名なダヴィッド作、

『サン・ベルナール峠を越えるナポレオン』が印刷されたノートを差し出し、

さりげなくサインを求めるだろう。

ナポレオンはこう言う。

「これは私のように見えるが、いったい誰が書いたのか」。
勤勉なAさんは答える。

「5年後にお分かりになるでしょう」と。

にっこりと笑うAさんに、ナポレオンは興味をもつかもしれない。
Aさんはナポレオンに決して手をふれないようにしながら、
彼がいかに偉大な人物として語り継がれているかを、
具体的な事実をふせて説くだろう。

二人は妙に打ち解け、ナポレオンは、奇妙な友人のノートにサインする。

「さあ、サインした。私が未来で、どう語り継がれているかを見せ
てくれ」

ナポレオンは、意外にも朗らかに言うに違いない。
かくしてナポレオンは、

「かんしゃく持ち、落ち着きがない飽きっぽい性格」

「字がヘタでオンチ、クレープ占いにハマっていた痔持ち」

という、現代の歴史学の英知を目の当たりにするのである。

「聞いているのかね！」

社長の言葉で、はっと我に返った。

壁・床・天井、どこをとっても白一色の社長室の中で、
禿げ散らかした頭を乱反射させた初老の社長が非常に怒っている。

「君はどう、どう責任をとるつもりかね!？」

どうと言われても。

僕は白衣の襟をぴしりと正して、まじめに、まじめに頷いた。

「どうすることもできません」

爆音が響いた。

白壁がぶちぬかれた。

社長がまるでグ○コのパッケージのように、両手と片足をあげて絶叫した。

コンクリートにドリルをねじこむようなマシンガンの連射音が、
怒号のように流れ込んでくる。

ぼくは、夕焼けの空がひろがった壁に近寄り、
眼下の世界を見下ろした。

血の海——もちろん比喻ではない——の上で、
ナポレオンと煬帝が現代人を奴隷に決戦をくりひろげている。

廃墟となったビルの屋上ではマタ・ハリと川島芳子が磔にされ、
イエス・キリストとムハンマドとガウタマ・シツダールタがそれぞれ
祝詞をあげている。

カエサルとブルータスはさながら青春のように
血の染みたコンクリートの上で殴り合い、
そんな二人を前に徳川綱吉が満足げに頷いている。

三人をまとめてガトリング砲でぶち抜いたヘンリー・リー・ルーカ
スは、
その肉片を拾ってアルバート・ハミルトン・フィッシュに手渡すも
のの、
彼はウジ虫でも見るようにして受け取らなかった。

人なら沢山いるものの、現代の政治家はどこにも見えなかった。
コの字になった部屋の隅にはりつきながら、社長は泣き叫んだ。

「君は、規則は万全にととのえたと言っただろう!？」

ふとぼくは、めぐらせた視線をとめた。
とあるビルの屋上に、ボロボロの和服を着た子どもたちがいる。
遊んでいる。歌が聞こえてくる。
とおoryんせ、とおoryんせ。

「きみ、答えたまえ!!」

「規則は万全です」

行きはよいよい、帰りは怖い。
こわいながらも…

子どもたちの声が、紅い空を飛んでくるヘリの轟音に掻き消える。
あれにはいったい、誰が乗っているんだろう。
歴史上の全人類を選択肢に入れなければならない、そんな日がある

なんて。

ぼくはひとつ、ため息をついてガタガタとふるえる社長を振り返る。襟をぴしりと正して、ぼくはまじめに言い切った。

「こちら側の規則は。　ですけどね」

これは未来からの手紙である。

タイムマシンは、作らない方がよい。

(後書き)

他の連載小説（英雄の伽）を書いている合間にふと浮かんだ、奇妙なショートストーリー。お楽しみいただけただけでしょうか。

それでも私はタイムマシンが欲しいです。

だって、トトメス3世に会いに行きたいもの！！

読んでくれて、ありがとう！

火和良のHPはこちら<http://aria0007.blog.fc2.com/>
ついつたは [こちらhttp://twitter.com/clown07](http://twitter.com/clown07)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9434i/>

タイムマシンは作らない方がよい。

2010年10月22日00時18分発行